

2012年1月13日

関係各位

千代田化工建設株式会社
IR・広報室

オーストラリア・イクシス LNG プロジェクトを受注

千代田化工建設株式会社（代表取締役社長 久保田隆、本社 横浜市鶴見区鶴見中央2-12-1）は、日揮株式会社および米国 KBR 社と共同（JKC J/V）で、国際石油開発帝石株式会社（インペックス）がオーストラリアで開発を進めているイクシス LNG（液化天然ガス）プロジェクトの EPC（設計・調達・建設）業務の契約承認を受けましたので、お知らせいたします。詳細は以下の通りです。

記

1. 契約先： Ichthys LNG Pty Ltd
(イクシス LNG プロジェクトの天然ガス液化・販売等を行う事業会社)

イクシスプロジェクト参加割合： インペックスグループ会社 76%
仏トータルグループ会社 24%
2. 建設地： オーストラリア 北部準州 ダーウィン
(Darwin, Northern Territory, Australia)
3. 契約内容： 年産 840 万トン（420 万トン× 2 系列）の LNG 生産プラント
(LPG 年産 160 万トン、コンデンセート日量 1.5 万バレル（ピーク時）を含む)
その他ユーティリティ、オフサイト、マリン設備、インフラストラクチャー等付帯設備の EPC 業務と試運転業務
4. 契約形態： 一括請負（ランプサム）契約、単価性（リメジャブル）契約*および実費償還（コストレインバース）契約の複合契約

*単価性契約：工事単価は事前に確定しているものの、工事数量は実際の工事量に基づいて調整される契約
5. JKC J/V
受注金額： 約 150 億米ドル
6. 遂行体制： JKC J/V にて遂行、日揮が J/V リーダーを務める。

7. プロジェクトの概要：

イクシス LNG プロジェクトは、ダーウィンから 850km 西方のインド洋オフショアのガス田（イクシスガス・コンデンセート田）から生産される天然ガスを LNG、LPG 及びコンデンセートとして出荷するプロジェクトです。生産される LNG の 7 割相当は日本向けに出荷される事が確定しており、オペレーターを務めるインペックス及び日本国にとって、エネルギー安定供給及び天然ガス供給元の多様化の観点から日本のエネルギー政策を担う最重要案件として認識されています。また、オーストラリアにとっても、本プロジェクトは連邦政府から主要促進プロジェクトとして認定され、同国の輸出振興、雇用促進の観点からも最重要案件の一つとして位置づけられており、日豪両国の関係を一層緊密にするプロジェクトとして期待されています。

また、本プロジェクトでは、建設現場での作業量を最小限に抑える目的で、LNG プラントの主要ユニットにつき大規模モジュール工法（別の場所で小規模に分割したプラント設備を製作し、現地で最終組み立てを行う方式）を採用する方針であり、高度な設計及び工程管理能力、プロジェクトマネジメント力が必要とされる先進的なプロジェクトとなります。

当社は、LNG プロジェクトの豊富な経験と実績を活かし、当プロジェクトの基本設計役務を通して顧客に向けて継続的な提案を行い、今回の EPC 契約受注に至りました。千代田、日揮、KBR、はプロジェクト遂行力において国際的に高い評価を受けており、近年 3 社あわせて世界の LNG 生産量の 75%以上を占める LNG プラントを建設してきた実績を誇ります。JKC J/V は地域環境および建設現場において高いレベルの安全基準や労働基準を適用する事に努めると共に、オーストラリア及びダーウィンの地域社会の持続的発展に貢献してまいります。

本プロジェクトの受注金額は、当社創業以来、最大規模となります。当社は、本プロジェクトの基本設計段階から一貫して、プロジェクト実現に向けて協力してきました。また、現在当社は新潟県上越市においてインペックス向けに、直江津 LNG 受入基地建設プロジェクトを 2014 年の完工に向け遂行中であります。

当社は、これまで様々なプロジェクトを通して蓄積してきた英知を結集し、イクシス、直江津の両プロジェクトを成功裏に完成させるべく尽力していくと共に今後ともこうした日本のエネルギー政策を推進するプロジェクトに対し、積極的に取り組んでまいります。

以上

この件に関するお問合せ先：IR・広報室 伊藤 健 / 高橋 昌子

電話：045-506-7538 Fax：045-506-7085

URL：<https://ssl.chiyoda-corp.com/contact/index.php>